

## 実践事例 2

### 1 題材名 「265年の礎」

－幕府の成立期の政策から紐解く、江戸時代が長く続いた理由－

### 2 題材観

#### (1) 江戸時代は本当に「長い」のか

江戸時代は、265年間、同一家系である徳川家によって政権が維持されました。このことをどのようにとらえるのかは人それぞれですが、授業者は江戸時代を「長く続いた時代」と考えています。

これは、それまでの日本の歴史を考えれば明白です。国家単位で政治が行われていた時代を対象に調べてみると、飛鳥時代は約120年、奈良時代は約80年、平安時代は約400年、鎌倉時代は約140年、室町時代は約200年、安土桃山時代は約30年続いています。平安時代が約400年間続いていることを長く感じるかもしれませんが、桓武天皇による平安遷都後、藤原氏による摂関政治が行われたり、武士が興り源氏と平氏による争いの時代を迎えたりと、その政治主体は変遷しているため、同一家系による政権の維持とは性質が異なるととらえられます。また、室町時代から安土桃山時代にかけての戦国期には、様々な武将が勃興し、実質的には地域ごとに政権が成立した時期を迎えます。さらに、織豊時代（織田信長と豊臣秀吉によって政治が行われた時代）に至っては、中学校の授業で必ず扱う時代であるにもかかわらず、わずかに約30年間の話です。そのような状況から265年間も維持された政権が登場したことは、歴史的な事件ととらえても大袈裟ではないような気がします。

そう、江戸時代は「長い」のです。

#### (2) なぜ江戸時代は長く続いたのか

徳川家によって、265年間も政権が維持できた理由を考えてみます。

##### ①徳川家康が有力者を滅ぼしたこと

徳川家康が織田氏や今川氏のもとで人質生活を体験したことは有名です。そのような苦難の時代を経験した家康ですが、政治の実権を握った時には58歳になっていました。幕府を開いた後も合わせて、武田勝頼、石田三成、豊臣秀頼と高名な武将を次々と滅ぼしています。江戸時代が始まる前から、その下地づくりが始まっていたと言えます。

##### ②江戸幕府の仕組みが整備されたこと

江戸幕府はそれまでの武家政権と比較し、細かく役職が決められていました。中でも、大目付や

寺社奉行、京都所司代の役職を設置していることから、大名や寺社、朝廷の監視に力を注いでいたことがわかります。それまでの武家政権の仕組みを発展させ、意図的な国家経営をしていたとも言えるでしょう。

##### ③大名統制に工夫を盛り込んだこと

徳川家の一族を親藩、関ヶ原の戦い以前から徳川家の家臣であった者を譜代、関ヶ原の戦い以後に徳川家に従った者を外様としました。大名を分類するとともに外様大名領を江戸から離れた場所にするなど、その配置自体にも気を遣い、反乱因子を積極的につぶしにかかっていたことがわかります。また、外様大名領の近くに親藩や譜代を配置するなど、監視も怠りませんでした。

##### ④直轄地を設定したこと

政治的・経済的に重要であると判断した土地を幕府が直接支配する体制をつくりました。商業の中心地であった大阪、貿易で賑わう長崎、鉱山開発が進められた伊豆、石見、足尾などが直轄地です。また、ロシアに対する軍事拠点であった蝦夷地も直轄地とされました。

##### ⑤決まりをつくって大名・朝廷を統制したこと

将軍の代替わりごとに武家諸法度を発布し、従わない大名の領地を変えさせたり取り上げたりするなど、厳しく処罰しました。城の新築や、許可が無い結婚を禁ずるなど、これにも大名統制の意図が込められています。また、朝廷に対しても禁中並公家諸法度を発布し、政治的権力をもたせないようにしました。

##### ⑥身分制度が浸透した世の中を確立したこと

江戸の総人口の8割を百姓身分が占めていました。支配層の武士はわずか7%程度ですが、身分に応じた生活を要求するなど、秀吉時代の身分政策をさらに押し進めました。

##### ⑦貿易の利益を幕府が独占したこと

江戸時代初期には東南アジア諸国と朱印船貿易を盛んに行いました。その後、長崎、対馬、薩摩、松前の4つの窓を外交ルートとして、オランダ、中国、朝鮮、琉球、蝦夷地と貿易を行いました。

4つの窓は単なる貿易品のやりとりを介した金銭的な利益を目的としただけでなく、外国の情報を得るための重要な機会となりました。オランダ風説書などは、この代表例と言えます。また、朝鮮通信使なども同様の目的で機能していました。

### ⑧キリスト教の弾圧を対外政策の重点としたこと

江戸幕府は始めキリスト教を黙認していましたが、禁教令を出します。信長の治世には15万人程度だったキリスト教信者が、家康の頃には80万人近くまで膨れあがりました。信者の広がる勢いに幕府は驚異を感じたのです。また、スペインやポルトガルによる日本の征服を危惧したことも、キリスト教を弾圧した理由として挙げられます。さらに、キリシタン大名の存在からもわかるように、外国とつながりをもつことにより幕府の地位を脅かす勢力が拡大することも恐れていました。幕府に都合が悪い文化を排除することにより、統治体制を維持しようとしたのです。

### ⑨財源の安定を図ったこと

幕府の財政を支えたものは年貢でした。江戸時代には新田開発に力を入れ、収穫量を増やす努力をしました。この背景には、土木技術や農具の進歩があります。さらに、肥料の改良や商品作物の栽培が進み、特産品が生まれ、こういった面からも幕府や各藩の財政が支えられました。

### ⑩交通網が整備されたこと

五街道や北前船などの航路に代表されるように、交通網が整備されました。これにより、人や物の移動が活発になり、経済が活性化しました。一方で関所を設けたり、主要な川にはあえて橋を架けなかったりと、幕府は江戸を守るための策を講じていました。

10個の理由を挙げてみましたが、これだけで265年間も政権を維持できたとは考えづらいです。なぜなら、江戸時代と簡単に一括りにすることはできないからです。世の中は変化し続けましたし、変化に対応するための策はここでは書ききれないくらいに存在していたはずです。また、年代的にも様々な背景を理由として盛り込みましたが、本題材においては、江戸初期に②③④⑤⑦⑧で述べたような、その後の礎となる政策が打ち出されたことを根拠に、江戸の初期の政策に重点をおきます。その後の題材においても、経済や文化の発展にも根拠を求めながら、江戸時代で学びを深めていく子どもたちの姿を期待しています。

## (3) 子どもたちにとっての江戸時代

子どもたちは本題材の直前に、「織田信長と豊臣秀吉がそれぞれどのような社会をつくろうとしたのか」を学習しました。織豊時代の社会について各人の政策から考察し、2人のつくろうとした社会の共通点や相違点について意見交換をしました。その際、「安定した社会」をつくろうとしたことが共通点であることを子どもたちは見いだしました。授業者が「安定した社会」とはどのような社会か問いかけてみると、「争いがなく、支配体制が整っていること」と答える子どもが多数を占めました。ただし、この解釈については疑問が残った子どももいたようで、「進化し続けなければ、安定は実現できない」などの考えを、授業後に改めて授業者に伝える子どももいました。

本題材を構想するにあたって、「江戸時代がどのような時代か」を子どもたちに聞いてみました。

- ・武士が中心の世の中である
- ・民衆の間でも様々な文化が開花した
- ・外国とのつながりが少なかった
- ・現代の日本につながる世の中になった
- ・商工業などが急に発展していった印象がある
- ・華やかな時代
- ・日本の転換期

様々な江戸時代に対するとらえの中でも、以下のような回答が最も多かったです。

- ・様々な時代の中でも、長く続いた時代
- ・一つの家系によって支配が続いた時代
- ・他の時代と比較すると大きな争いがなく、平和で安定した時代

ここでも、「安定」というキーワードが顔を出しました。江戸時代において「為政者がどのような意図をもって政治を進めたのか」「その意図を実現するために、どのような方法を採用したのか」を子どもたちが考えることにより、前題材で明確にならなかった「安定した社会とはどのような社会か」について考えを深め、「社会づくりに込められた意図や、そのような社会を実現するための方法」について迫っていくことができるのではないのでしょうか。

「織田がつき羽柴がこねし天下餅 座りしままに食うは徳川」という歌があります。「座りしままに食う」という表現からは、徳川家康が織田信長や豊臣秀吉の社会づくりをもとに、何の苦労もなく支配体制を固めた印象をもちます。しかしながら、江戸時代までに一つの家系によって265年も支配体制が継続した時代はありません。このことから、江戸時代には国づくりのヒントがあるのかもしれない

ません。授業者も、江戸初期の政策に隠された江戸時代の長続きの秘訣を、子どもたちとともに味わっていきたいと考えています。

#### (4) 本校の研究内容との関連

今年度の本校の研究では、「共に創りあげる授業」－『思考力』を育みながら「教科ならではの文化」を味わう子どもたち－という研究主題・副題のもと、教科ならではの学び合いを通して、『思考力』を育みながら「教科ならではの文化」を子どもたちが味わうことを重点としています。

(様々な授業を経験して子どもたちは文化化されていきますから、正確に述べるならば、「本題材においても味わってほしい『教科ならではの文化』という表現がしっくりくるのですが、) 本題材における「教科ならではの文化」は、「資料に根拠をもとめた考察をもとに、江戸時代初期の社会の姿を描くこと」です。

これは、歴史学者の営みに近いものがあるかもしれません。教室に小さな歴史学者が何名かいて、その子どもの歴史学者らしい考え方やふるまいに感化された子どもたちが増えていくことによって、歴史的分野で学んでいる人らしい営みが教室に広がっていくことでしょう。そのためには、子どもたちが考察するに絶えうる資料を提示する必要があります。「なぜそのように考察することができるのか」の根拠を資料に求める子どもたちの姿が随所に見られるのであれば、本題材において教科ならではの学び合いがあったと判断してもよいでしょう。

参考文献：相澤理（2014）『歴史が面白くなる 東大のディープな日本史3』  
KADOKAWA 中経出版

参考資料：「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構  
自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト 平成27年度活動報告書  
『協調が生む学びの多様性 第6集 ー私たちの学習科学を育てるー』

### 3 学習指導要領との関連

#### (4) 近世の日本

イ 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国化の対外政策などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

#### 4 授業実践

##### (1) 江戸時代の学習を貫く問いを共有した上で、 武家諸法度の第1条に込められた意図に迫る

授業者は、子どもたちに事前アンケートの結果を示すとともに、織豊政権と江戸時代の長さを比較できる資料を提示しました。その際、江戸時代より平安時代の方が長いことについて指摘する子どもがいたため、平安時代は実質的な為政者が変遷したことが江戸時代と異なる点であることを、

また、教科ならではの学び合いがすべての子どもたちの間で巻き起こるように、知識構成型ジグソー法を意図的に構想に盛り込み、対話の機会を保障します。異なる視点から考察をもち寄って課題を解決しようとする活動を通して、『思考力』を使いながら育んでいく子どもたちの姿にも期待しています。さらに、江戸時代初期の政治を材料に、江戸時代が長く続いた理由の一端を見いだした子どもたちは、江戸時代の初期の政治がどのように変化していくのか関心をもったり、江戸時代が長く続いた他の理由を探したくなったりするのではないのでしょうか。これが、子どもたちが見つける「次の問い」です。政治の変遷、経済政策、文化的な進展など様々な背景をもとに、新たな追求活動に旅立つ子どもたちを、その後の授業においても支えていきたいと考えています。

「社会科の主張」に照らし合わせて考えると、「様々な方法を導入することによって為政者が、よりよい社会をつくろうとしていたこと」に迫っていく子どもたちの姿が見られることでしょう。これが本題材において子どもたちが創る「社会の姿」です。そしてこの江戸時代初期の営みが、時間的・空間的に様々な社会において大切にされている（きた）ことであると気づいた子どもたちは、自分自身（や、自分自身の生き方）とのつながりを見いだしていくことでしょう。江戸時代の社会的事象と無関係な存在ではないことに気づいた子どもたちが、何を思い、何を考え生きていくのかも楽しみにしています。

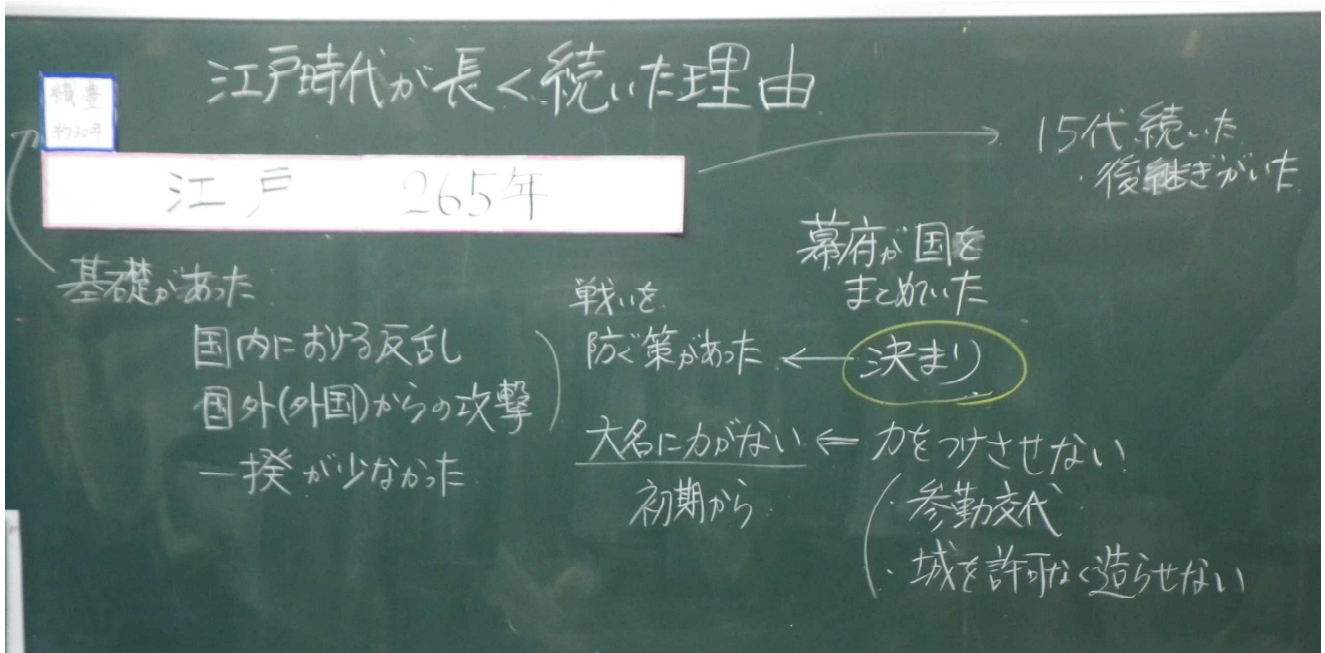
子どもたちと確認しました。

始めに、江戸時代が長く続いた理由を記述するように子どもたちになげかけました。

- ・将軍や幕府の支配が上手だったから
- ・幕府に反抗する勢力を抑えていたから
- ・織田信長や豊臣秀吉のつくった基礎を徳川家が受け継いだから

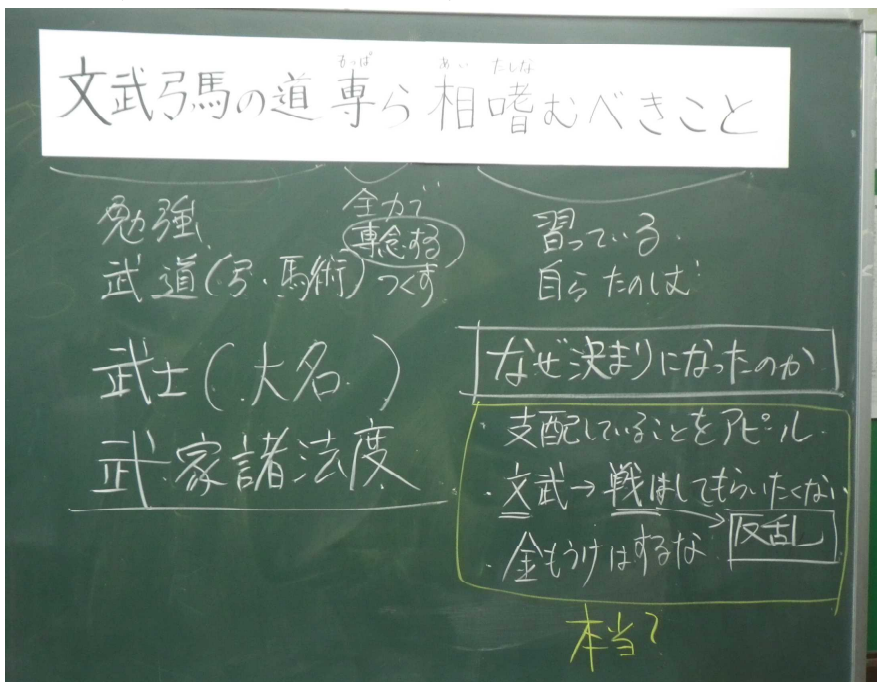
- ・外国とのかかわりを絶ったため、攻撃されなかった
  - ・後継ぎが絶えなかったから
- など

次に、子どもたちは江戸時代が長く続いた理由について語り合いました。話し合いの板書は、以下の通りです。



子どもたちが語り合ったところで授業者は、今後いくつかの題材を通して「江戸時代が長く続いた理由」を明らかにしていくことを伝えました。その後、1615年に制定された武家諸法度の条文

の第1条を子どもたちに提示し、「条文の意味」「どのような人を対象として、どのような意図を込めて条文が定められたか」を子どもたちに聞いてみました。その際の板書は、次の通りです。



最後に授業記録を書く時間をとりました。授業記録には、以下のような記述がありました。

- ・武家諸法度は何のためにつくられたんだろう

- ・武士に心得を示したのではないか
- ・幕府はきまりをつくって反乱できないようにしたのではないか
- ・どんなことが決められていたのかを詳しく知

- りたい
  - ・大名に不満はなかったのか
  - ・武家諸法度以外に規制するようなものはなかったのか
  - ・武家諸法度と似たようなものを、公家に対してつくったことについて聞いたことがある
  - ・幕府が265年も続いた理由が気になった
- など

**(2) 江戸時代が長く続いた理由を、江戸初期の政策から解き明かす（エキスパート活動まで）**

課題を確認した上で、3人（一部4人）グループになり、以下の視点を分担して個人で追求していきました。

- ①大名配置と幕府領
- ②武家諸法度と参勤交代
- ③外交・貿易統制

子どもたちは授業者が準備した資料をもとに、江戸時代が長く続いた理由について考察していきました。それぞれの資料からは、次のような読み取りや、問いに対しての考察がなされました。

- ①大名配置と幕府領
  - ・親藩、譜代、外様大名に区別して、大名を配置し直したこと
  - ・親藩と比較し、譜代・外様大名の割合が大きいこと
  - ・石高が高い有力な大名の多くは、外様大名であること
  - ・外様大名を江戸から遠い場所に配置するとともに、その付近に譜代大名を配置したこと
  - ・幕府にとって直接的な利益につながる産物が採れる場所や主要都市を直轄領にしたこと
  - ・直轄領を設定することにより、最も大きな勢力であった外様大名の4倍程度の財力を幕府が握っていたこと

↓

  - ・幕府が戦いがおこらないように考え、平和な社会になった
  - ・外様大名の配置など、様々な面で不利にしていた
  - ・万が一一大名に裏切られても、簡単に攻められないようにした
  - ・幕府は日本経済を大きく左右する都市を自分のものにしていく
  - ・幕府は貨幣の発行権を握っていた
- ②武家諸法度と参勤交代

- ・武家諸法度には、城の修繕や新築、結婚が許可制であることなど、かなり細かなことまで制定されていたこと
  - ・参勤交代が盛り込まれ、遠方の大名にとっては費用の面で大きな負担であったこと
- ↓
- ・現代の法律のようなものをつくり、大名ができることを制限した
  - ・大名に金をたくさん使わせて、反乱できなくなった
  - ・武家諸法度や参勤交代の結果、幕府が最も金をもつようになった
  - ・幕府は人質をとることで、大名が反抗できなくした
- ③外交・貿易統制
- ・江戸時代になってイギリスやスペイン、ポルトガルとのつながりを断ったこと
  - ・朱印船貿易が幕府の利益だけでなく、西日本の大名の利益につながってしまったため、廃止したこと
  - ・ヨーロッパの国々ではオランダのみと出島で貿易をしたこと
  - ・オランダに風説書を提出させることにより、外国の情報を幕府が独占していたこと
- ↓
- ・外国との関係を薄くし、大名が金儲けをしないうように工夫した
  - ・大名が金銭的に力をつけなければ、国内の戦を防げる
  - ・日本から反抗的な勢力を排除し、従う者だけを残した
  - ・幕府にとって都合の悪い考え方をしたり、侵略されたりする恐れがある宗教は排除した
  - ・長崎が幕府の直轄領だったため、大名が直接利益を上げることがなかった
  - ・世界の様子を把握することができた
- など

子どもたち一人一人が問いに対する考えをつくったところで、①～③の視点ごとに集まり、考えを共有しました。そこでは、仲間の考えを聞くことにより、自分が考えを広げたり深めたりする子どもたちの姿が見られました。

**(3) 江戸時代が長く続いた理由を、江戸初期の政策から解き明かす（ジグソー）**

子どもたちは、3（4）人グループになって「江戸時代が長く続いた理由」について話し合いました。その際に授業者は対話の活性化をねらいとして、グループで考えた理由を60文字以内で文章に

表現するように、子どもたちに伝えました。グループにおいて子どもたちが考えた「江戸時代が長く続いた理由」は、以下の通りです。

- ・幕府は信頼のない大名を遠くに配置し、参勤交代でお金の負担をかけ、貿易では権力を握らせないようにしたから
  - ・幕府が武家諸法度を設定し、大名が力をつけないようにした。さらに外交を制限し、争えない環境をつくったから
  - ・貿易を制限するとともに外国の情報を取り入れ、大名配置の工夫などで力をつけさせず、幕府に対抗させなかったから
  - ・参勤交代や貿易統制によって大名に力をつけさせず、幕府は利益を得ながら権力・財力・情報を独占したから
  - ・幕府に反抗する勢力を排除し、幕府が大きな力をもてる環境をつくったから
  - ・幕府は様々な政策で大名に金や力をもたせず、幕府を脅かす恐れのある勢力が攻撃できないような状況を強制的につくりだしたから
- など



#### (4) 江戸が長く続いた理由について共有し、新たな問いを生み出す（クロストーク）

グループごとにつくった文を紹介し合う時間を設けました。その後、改めて個人で「江戸時代が長く続いた理由」をワークシートにまとめました。その際「題材を通して新たに生じた疑問」も記すように授業者は伝えました。最終的に以下のような問いに対する回答や疑問が記されました。

##### 例 1

授業開始時の問いに対する回答

- ・基礎があったから

↓

授業終了時の問いに対する回答

- ・武家諸法度や貿易統制などにより、大名に力をつけさせないようにして、外国とのつながりも制限し、争いが起きにくい環境をつくったから。さらに大名の力をすべてなくすのではなく、弱めることで大名が幕府に反抗しなかった

新たな疑問

- ・なぜ江戸時代は終わったのだろうか

##### 例 2

授業開始時の問いに対する回答

- ・まとまっていたから。上下関係がはっきりしていたから。政治の仕組みがしっかりしていたから。争いや一揆が少なかったから

↓

授業終了時の問いに対する回答

- ・幕府が何か起きてしまう前に対策をしていました。大名たちに反乱を起こさせてしまう前に、幕府が反乱を起こさせないようにしていました。大名の配置を決め、武家諸法度を制定し、大名の力を抑えつつ、不満がたまらない程度に統制していました。さらに、鎖国をすることで、外国からの貿易も制限していました

新たな疑問

- ・幕府に反抗するものは本当にいなかったのか
- など

子どもたちが最終的な考えをまとめたところで、1683年に武家諸法度の第1条の条文が改められたことを紹介しました。

1615年	文武弓馬の道、専ら相嗜むべきこと
	↓
1683年	文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事

弓馬の道を嗜むことが消え、儒教の徳目である「忠孝」「礼儀」という言葉が盛り込まれたことに子どもたちが気づいたため、武断政治から文治政治に転換を図る幕府の意図を授業者は説明しました。このようなエピソードを紹介することで、「社会の変化に応じて、政治が変化していくものであること」に子どもたちが思いを馳せるとともに、自分たちも社会の変化の中において、一人一人がそのような変化をもたらす存在であることを予感することをねらっていたからです。

最後に題材の内容に関する感想ではなく、授業手法についての感想を子どもたちに求めました。以下に記します。

- ・新しい発見がたくさんあった。言葉は聞いたことがあったけど、その言葉の意味がよくわからないものについて、グループの活動を通してよくわかった

- ・一つ一つのことについて詳しく知ることができて、話し合っていくうちに共通点も見つかり、とても楽しかった
- ・自分にしかない情報があり、そこから考えたことをわかってもらえるように説明する訓練にもなった
- ・自分の考えをたくさん言えたし、うまくまとめることができた。個人の考えを取り入れやすいし、同じ資料で追求している仲間と話し合うことでさらに深まった
- ・他の人も同じ資料で考えているはずなのに、結論が少しずつ異なり、それを比べることはとてもおもしろい
- ・グループの仲間と考えていくうちに新しい疑問が生まれたことに充実感を感じた

など